

1（2）多様な対象者のための学習講座

⑤ 民具の使い方や特徴を紹介
資料「伝えたい民具と方言」

○ **資料（冊子）作成のねらいと概要** —若い世代に民具に親しむ機会を作りたい—
一つ一つの民具は、当時の暮らしぶりを語ることによって、その民具が活躍していた時代を考えることができる。しかも、その語りはこの地方の方言で綴ってこそ、民具は生きてくる。日常の中でその民具がどう働いていたと併せて方言や暮らしを紹介することで、次代を担う世代に民具を知るとともに、これから生きていく知恵と働くことの大切さを伝えることができると考えた。

○ **制作過程（取材方法、内容）**

民具が大いに使用されていた当時の生活を構成していたと考えられる13のテーマを設けた。

- | | | |
|--------------|--------------|------------|
| ①学校 | ②登校 | ③おーらい（道路） |
| ④さつき（春の農作業） | ⑤よーたか（田祭り行事） | ⑥あき（秋の農作業） |
| ⑦獅子舞（収穫祝い行事） | ⑧宮（神社行事） | ⑨嫁入り・嫁取り |
| ⑩ごぼ（暮らしと宗教） | ⑪野（人の死） | ⑫ほばた（生活水） |
| ⑬えんなか（囲炉裏） | | |

- ①これまでに本資料館が収集し、保存しておいた資料を整理した。
- ②その裏付けとして、80～90歳代の古老に思い出話を方言で語ってもらった。特に、砺波地方独特の言い回しをよく聞き取り記録した。
- ③地区公民館に語り手・話し手を紹介してもらい、市内全地区を取材して回った。
- ④特に、地区毎に方言が微妙に異なることもきちんと記録した。
- ⑤さらに他市町にも協力を依頼し県内各地の方言、言い方も列記することができた。その結果を、資料「伝えたい民具と方言」にまとめ発行した。

○ **調査、取材、資料作成を通しての成果と今後の展開**

- (1) 40～50歳代の人、明治・大正生まれの祖父祖母の働きぶりを目にしていること、また、砺波地方の広い屋敷や納屋にまだ民具が保管してあることなどから、案外昔の話が伝わっていることが分かった。
- (2) 富山県内の他市町の方言も調査できたので、富山県共通の方言と、砺波地方独特の方言がはっきりしてきた。さらに、砺波市内は細かく聞き取りをしたので、暮らしぶりが地域によって少しずつ違うことが推察された。
- (3) 公民館を回っている折、話題を投げかけると、これまで語ることを遠慮していた年寄りがおおいに語り始めた。あまりにも生き生きと楽しそうに語るので、若者も興味深く耳を傾ける様子が見られた。こうした機会を各地域、各公民館で実践することが期待される。
- (4) 電子機器にふりまわされている時代だからこそ、古民家見学に参加したり、もの作りのイベントに若者が集まったりと、手作業時代の温かさを求めて人々が動いているのではないかと推察される。

資料の活用と今後の展開 資料の配布先は、地区公民館（市内21地区）及び調査協力員、社会福祉関係施設（大規模6、その他小中規模）。市内小中高等学校、希望される地域サロン（市内150カ所）県内図書館、博物館等（これらすべて対して受領証を得る）とし、本資料が世代間をつなぐ資料として利用されるようにする。また今後講演等発表の機会を通じて、民具への関心を高め、各世代で利用させるよう広報を継続する。